

(リハビリテーション部)

リハビリテーション部研修生受入要項

1. 研修目的

各分野における病態の理解、専門的な評価や治療技術、機器を用いた客観的な評価や効果判定など、大学病院内でのリハビリテーションに関わる評価治療技術を習得してもらい、地域医療に貢献できる人材を育成する。

2. 研修対象

研修を受けようとする者は理学療法士・作業療法士・言語聴覚士国家資格を有する者に限る。

3. 研修期間

基本は3～5日間コースとする。

*研修期間や頻度の変更など、個別対応可能。事前にリハビリテーション部の担当者に連絡して調整する。

4. 募集期間

随時

5. 研修手続

高知大学医学部附属病院研修生受入規程に基づき、所定の書類を病院長に提出しなければならない。

6. 研修費用

研修費用は、高知大学医学部附属病院研修生受入規程に基づく。

7. 交通費

研修に関わる交通費は受益者負担とする。

8. 研修カリキュラム（別紙参照）

理学療法部門：①整形外科疾患理学療法 ②呼吸理学療法
③心臓リハビリテーション ④新生児理学療法
⑤糖尿病リハビリテーション ⑥機器を用いた客観的な動作評価

作業療法部門：①急性期作業療法 ②頸椎頸髄疾患における作業療法
③ハンドセラピー（整形外科分野）
④精神作業療法

言語聴覚療法部門：①音声障害に対する評価とリハビリテーション
②聴覚障害に対する評価とリハビリテーション
③嚥下障害に対する評価とリハビリテーション

共通部門：①がんのリハビリテーション

9. 研修生の責務

病院研修生は、病院長の指示に従うとともに高知大学の諸規程を遵守しなければならない。

研修カリキュラム

(理学療法部門)

整形外科疾患に対する理学療法研修カリキュラム

到達目標

各疾患の評価・治療、手術見学などを通して、整形外科疾患に対する急性期リハビリテーションを理解すること。

	研修項目	研修内容
1 日 目	・一般整形外科（総論）	・整形外科外来、リハビリテーション医診察の見学 ・整形外科カンファレンス、回診への参加
2 日 目	・脊椎疾患	頸髄症・腰部脊柱管狭窄症・側弯症などの脊椎脊髄疾患に関する評価・治療の見学
3 日 目	・骨関節疾患	・TKA・THA・ACL術前後の評価・治療の見学 ・HHDやトルクマシーンなどの機器を用いた機能評価
4 日 目	・画像	X線・MRI・CT画像の基本的な見方や疾患別の画像の特徴について
5 日 目	・手術見学	当院で行われている脊椎脊髄疾患・骨関節疾患の手術見学

呼吸理学療法研修カリキュラム

到達目標

呼吸理学療法に関する基礎知識と基本技術を身につけるとともに、他職種連携の中での理学療法士の役割について理解する。

	研修項目	研修内容
1 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・呼吸機能検査 ・呼吸法・排痰法 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学 ・胸腹部外科術前理学療法 (スパイロメータ測定、呼吸法・排痰法指導)
2 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸ケアチームにおける理学療法士の役割 ・呼吸リハビリに必要なフィジカルアセスメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸ケアチームのラウンド参加 (該当週のみ) ・他職種とのミーティング ・視診・触診・聴診
3 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・排痰・呼吸介助手技 (実技) ・酸素療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患患者の排痰・呼吸介助 ・酸素療法中の患者の理学療法
4 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・血液ガスの解釈 ・人工呼吸器の基礎 (臨床工学部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着患者の理学療法 ・人工呼吸器のモード
5 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・ICUにおける呼吸管理 ・気管吸引 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICU 見学 ・体位ドレナージ ・人工呼吸器装着患者の気管吸引

心臓リハビリテーション研修カリキュラム

到達目標

心臓リハビリテーションを実施する上で必要な知識・評価技術を習得し、心臓リハビリテーション分野に貢献できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	・循環器疾患の理解	心筋梗塞・狭心症・弁膜症・大血管疾患など、主要な循環器疾患に関する病態理解
2 日 目	・検査所見の見方	心電図・レントゲン・心エコー・CAG・血液所見など、各疾患に応じたチェックポイントを学び、リスク管理や運動療法への応用を習得する。
3 日 目	・運動耐容能などの評価	12誘導心電図や6分間歩行テストを実際に行い、各種疾患に対する心リハの有効性について検討する。
4 日 目	・他部署見学	看護部の見学や服薬指導・栄養指導・CPXの実際を見学し、チーム医療における他職種の目的や関わり方を学ぶ。またCPXによる運動負荷方法やリスク管理、臨床応用を理解する。
5 日 目	・運動療法の実際	運動療法の適応と禁忌、有酸素運動、レジスタンストレーニングについて症例を通して研修する。

新生児理学療法研修カリキュラム

到達目標：

developmental care の概念に基づいた新生児理学療法のリスク管理と介入方法を理解する。

	研修項目	研修内容
1 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児理学療法の概要 ・PICU 施設見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・介入対象や目的、期間 ・入室方法の理解 ・管理対象児やスタッフ構成の把握
2 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・早産児や低出生体重児を中心とした新生児理学療法の特性 	<ul style="list-style-type: none"> ・Developmental care の概念 (NIDCAP を踏まえて) ・リスク管理
3 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張、原始反射、自発運動など、実際に行い評価手技や評価方法、結果の解釈を学ぶ (ブラゼルトン新生児行動評価の概念を中心に)
4 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法アプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニング Head control 促通など治療手技を習得するとともに療育者への指導内容などを学ぶ
5 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・外来 follow の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後の外来 follow を見学実施し、月齢に合わせた発達促通手技や装具療法、療育者への指導内容などを学ぶ

糖尿病リハビリテーション研修カリキュラム

到達目標

当院での教育入院システムや実際に指導している運動療法の内容の意図や目的について解説し、糖尿病に関する評価治療技術を習得してもらい、糖尿病のリハビリテーション分野に貢献できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	糖尿病と運動療法について	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病について ・運動療法の効果 ・運動設定（時間・頻度等） ・運動療法の方法 (レジスタンス運動・有酸素運動)
2 日 目	検査測定について	<ul style="list-style-type: none"> ・検査の目的・方法を学ぶ 筋力（μ-tas）、感覚（振動覚・タッチテスト）、反射、問診（セルフエフィカシー・転倒歴等）、In Body
3 日 目	糖尿病教育入院について	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間教育入院の流れ ・糖尿病カンファレンス参加（水曜日のみ）
4 日 目	栄養指導について	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士による栄養指導場面を見学し、その目的や指導方法について学ぶ。
5 日 目	リスク管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・合併症（腎症や網膜症等）がある患者に対する運動療法や注意点について。

機器を用いた客観的な動作評価研修カリキュラム

到達目標

種々の評価機器の操作学習し、動作における客観的な量的・質的な評価と結果や効果判定の解釈などを習得する

	研修項目	研修内容
1 日 目	・加速度計の使用法	実際に加速度計を用いた評価が行えるようになり、得られたデータを解析し、結果を解釈できるようになる
2 日 目	・筋力評価	ハンドヘルドダイナモメータ、表面筋電計を用いて、筋出力の量的評価から周波数解析など質的評価を行い結果の解釈を習得する
3 日 目	・筋電図の使用法	実際に筋電計を用いて筋活動の記録方法を習得し、積分値の算出や周波数解析ができるようになる
4～5 日 目	・実技演習	必要に応じて、学習した機器の使用を実技演習する。

研修カリキュラム

(作業療法部門)

急性期の作業療法研修カリキュラム

高知大学医学部附属病院リハビリテーション部

到達目標

急性期病院での早期離床やリスク管理を見学・経験し、急性期リハビリテーションにおける作業療法の役割を学び、理解する。

曜 日	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	・離床について	脳血管障害の急性期や脳腫瘍の術後患者のバイタル管理について 頸髄症・THA・手の外科術後患者のクリニカルパスの導入意義、活用方法 など
2 日 目	・リスク管理について	疾患別リスク管理 人工呼吸器管理 点滴・ドレーン管理 吸引について など
3 日 目	・ベッドサイド訓練見学	人工呼吸器管理患者 点滴・ドレーン留置患者 術後患者 の訓練見学 など
4 日 目	・I C U	I C Uでの訓練見学および体験
5 日 目	・離床・ベッドサイド訓練体験	リスク管理を行いながらの訓練体験 など

頚椎頸髄疾患における作業療法研修カリキュラム

到達目標

頚椎頸髄疾患における知識、評価、治療技術の研修を行い、研修終了後は、所属施設に寄与できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	・ 診療、訓練の概要	頚椎における解剖、筋走行、術式、 クリニカルパスの説明 頚椎頸髄疾患（頸髄症、OPLL、中心 性脊髄損傷等）の病態理解 頚椎頸髄疾患における作業療法の 有効性について リハ医診察 など
2 日 目	・ 作業療法評価	ROM/MMT/Sensory/握力 STEF/10秒テスト/FTT ピンチ力/触診 など
3 日 目	・ ADL 関連	ADL および基本動作の動作分析 解剖学（体表、機能解剖）に基づく クリニカルリーズニング リハビリ回診見学 など
4 日 目	・ 画像診断	X-p、CT、MRI の画像所見の分析 解剖学（体表、機能解剖）に基づい た Activity の実施 など
5 日 目	・ 環境調整 ・ 退院時指導	自宅環境に合わせた模擬的 ADL 訓 練の実施、自助具や福祉機器（入浴、 食事等）の導入、住宅環境の調整、 自主 ex・生活指導 など

ハンドセラピー（整形外科分野）研修カリキュラム

到達目標

整形外科分野の作業療法における知識や治療技術（評価、スプリンティング等）を習得し、整形外科分野に貢献できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	・ 診療・訓練の概要	肘、前腕、手における体表および機能解剖、各疾患（肘、手の骨折、損傷、末梢神経障害、手指の変形等）について リハ医診療見学 整形外科回診見学 など
2 日 目	・ 作業療法評価	ROM/MMT/Sensory/Hand20 DASH/STEF/動作分析/VAS 拘縮の評価など実施 など
3 日 目	・ ADL 関連 ・ 他職種との連携	動作分析 解剖学（機能解剖、体表解剖） に基づくクリニカルリーズニング リハビリ回診見学 など
4 日 目	・ Activity ・ Splinting ・ 自助具適合/作成	解剖学に基づいた Activity Splinting/自助具作成 など
5 日 目	・ 環境調整 ・ 退院時指導	自宅環境に合わせた ADL 訓練 福祉機器の導入 自主 ex（6 pack ex） 生活指導 など

精神作業療法研修カリキュラム

到達目標

精神科作業療法における知識、評価、治療技術の研修を行い、研修終了後は、所属施設に寄与できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の概要 ・精神科作業療法の概要 	統合失調症、気分障害、認知症等精神疾患に関する病態の理解、精神作業療法の有効性について など
2 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法評価・体験 	面接技法（支持的療法、再教育療法、表現療法など）の体験および実施 観察法（箱作り法による作業遂行機能評価）の体験および実施 など
3 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法体験・実施 	作業療法（手工芸、レクリエーション等）の見学および実施 対人交流技能獲得に対するSSTの見学および実施 精神科回診 など
4 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法 ・研修まとめ 	音楽療法の有効性について 音楽療法の見学および体験 研修総括 など

研修カリキュラム

(言語聴覚療法部門)

音声障害に対する評価とリハビリテーション

研修カリキュラム

到達目標

診察（内視鏡やストロボスコーピー、高速度カメラ等での評価）の見学、及び各種評価や機器の操作学習、音声リハビリテーション手技の研修を行い、音声障害に対するリハビリテーションに関わる治療評価技術を習得してもらい、地域医療に貢献できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	・オリエンテーション 診察の見学	病院施設見学、耳鼻咽喉科での診察の見学、 音声リハビリテーションの概要と当院での流れ
2 日 目	・外科的治療方法の見学	音声治療で改善が得られない場合に選択される外科的治療方法の見学
3 日 目	・検査機器の使用法 検査実技	空気力学的検査、音響分析装置、MPT、音階（話声位など）評価、VHI についての研修
4 日 目	・音声障害に対する リハビリテーション（1）	声の衛生指導や腹式呼吸、喉頭マッサージ、ハミング、チューブ発声などリハビリテーション手技の研修
5 日 目	・音声障害に対する リハビリテーション（2）	腹式呼吸などの呼吸方法、プッシング、プリング、硬起性発声、指圧法などのリハビリテーション手技の研修

【言語聴覚療法部門】

聴覚障害に対する評価とリハビリテーション 研修カリキュラム

到達目標

当院耳鼻咽喉科にて言語聴覚士の行う聴覚領域の検査、リハビリテーションに関わる治療評価技術を習得してもらい、地域医療に貢献できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	・オリエンテーション	病院施設見学、耳鼻咽喉科 医師 診察見学、検査見学 等
2 日 目	・聴力検査の実際と評価(1)	標準純音聴力検査、ティンパノメ トリー、音響性耳小骨反射検査、 歪成分耳音響放射 (DPOAE)、耳管 機能検査、鼻腔通気検査等成人領 域における聴力検査の研修
3 日 目	・聴力検査の実際と評価(2)	short increment sensitivity index test (SISI 検査)、自記オージオメ トリー、語音了解閾値検査、語音 弁別検査
4 日 目	・聴力検査の実際と評価(3)	自動聴性脳幹反応 (AABR) 聴性定常反応 (ASSR)、誘発性耳音 響放射 (EOAE)、聴性行動反応聴力 検査 (BOA)、条件検索反応長直検 査 (COR)、遊戯聴力検査等小児領 域における聴力検査の研修
5 日 目	・人工内耳リハビリテーショ ン 補聴器外来	人工内耳装用患者のリハビリテー ション見学、補聴器 外来・調整 見学

嚥下障害に対する評価とリハビリテーション 研修カリキュラム

到達目標

医師による摂食・嚥下障害患者の診察の見学や、摂食・嚥下リハビリテーションの評価・手技の研修や見学等を行うことによって、当大学病院での摂食・嚥下リハビリテーションに関わる治療評価技術を習得する。

	研修項目	研修内容
1 日 日	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション部 オリエンテーション 	病院施設見学、耳鼻咽喉科医師診察見学、リハビリテーション部医師診察見学
2 日 日	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下障害病態把握 	摂食・嚥下障害患者のリスク管理・病態について研修
3 日 日	<ul style="list-style-type: none"> ・成人の摂食・嚥下障害の症例 見学 ・リハビリテーション回診見学 	成人の摂食・嚥下リハビリテーションの見学、リハビリテーション医師とリハビリテーションスタッフの回診を見学
4 日 日	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の摂食・嚥下障害の症例 見学 ・NST カンファレンス見学 	小児の摂食・嚥下障害リハビリテーションの見学、脱感作や鼻呼吸などの間接法や食事姿勢・食具の選択などの直接法の研修、医師や看護師・管理栄養士等との NST カンファレンスを見学
5 日 日	<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下造影検査 ・耳鼻咽喉科医師診察見学 ・嚥下カンファレンス参加 	嚥下造影検査見学、耳鼻咽喉科医師診察見学、耳鼻咽喉科医師と言語聴覚士の嚥下カンファレンスの参加

研修カリキュラム

(共通部門)

【共通部門】

がんのリハビリテーション研修カリキュラム

到達目標

がんのリハビリテーションにおける知識や治療技術（評価、リスク管理等）を習得し、がんのリハビリテーション分野に貢献できる人材を育成する。

	研 修 項 目	研 修 内 容
1 日 目	・がんのリハビリテーションの概要	がんリハの基本的知識 など
2 日 目	・各療法評価	ROM 、 MMT 、 Sensory 、 performance status、血液データなど、各疾患に応じたチェックポイントを学び、リスク管理や運動療法への応用を習得する。 など
3 日 目	・ADL 関連 ・他職種との連携	・エネルギー消費の少ないADL 動作指導 ・リハビリ回診見学 など
4 日 目	・リスク管理	・SpO2 による負荷量測定 ・Borg スケール など
5 日 目	・まとめ	・嚥下、VF 見学 ・耳鼻科診察見学 など

